

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

論述式 (1行30字 2行×2、3行×2、5行×2 計20行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

第1問が古代、第2問が中世、第3問が近世、第4問が近現(近現代)からの出題で、昨年度と同様であった。

その他トピックス

第2問と第4問は、第2回東大入試オープンにおいて、関連するテーマを扱っていたので、受けていた生徒は取り組みやすかったであろう。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 5行	7～8世紀における中国文化の受容の変化とその背景	7世紀については、条件文(1)・(2)から朝鮮半島との関連を読みとりたい。8世紀については、条件文(3)の動向を機に、条件文(4)・(5)から読みとれる中国文化の直接摂取へと変化したことを論じたい。	標準
第2問	論述 5行	土一揆の蜂起への室町幕府の対応	設問の付帯条件にある「土一揆の構成や基盤」という視点から、条件文(1)・(2)と(3)・(4)との「違い」を明らかにしたうえで、土一揆の蜂起に対する室町幕府の対応のあり方を総合的に論じたい。	標準
第3問	論述 A 3行 B 2行	A 関ヶ原の戦い後における東海道整備の特徴 B 大名の参勤に対する意識の変化	Aは、設問の付帯条件にある「徳川家康の意図に留意」に注目し、関ヶ原の戦い直後における徳川家康の状況を推定したうえで、それと条件文(1)・(2)・(3)から読みとれる情報とを関連させたい。 Bは、条件文(3)から(4)にかけての変化の「背景」にある歴史的事象を推定したうえで、それと関連させながら「意識」の「変化」を論じたい。	標準
第4問	論述 A 2行 B 3行	A 明治初期において唱歌教育を実施しなかった理由 B 唱歌集の内容の変化を生じさせた事情	Aは、史料と条件文(1)とを関連させて分析することが要求されており、明治初期という時期も念頭に解答を導く必要がある。 Bは、条件文(2)と(4)から「変化」を読みとったうえで、その変化を生じさせた「事情」を、条件文(2)・(3)・(4)の流れに沿ってまとめたい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

過去問を用いた演習で、日本史の理解と解法の習得の度合いを確認し、それを日頃の学習に活かしていこう。作成した答案については、添削指導を受けることが望ましい。形式面では、条件文から読みとれた情報を解答に反映させる方法に早く慣れたい。内容面では、正確な知識と深い理解が要求されるので、量よりも質を意識した学習を進めたい。そして、文化史を不得意分野とせず、作品の暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、各文化の特徴を把握しつつ政治・外交・経済との関わりに十分注意したい。